

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

国語98 数学98

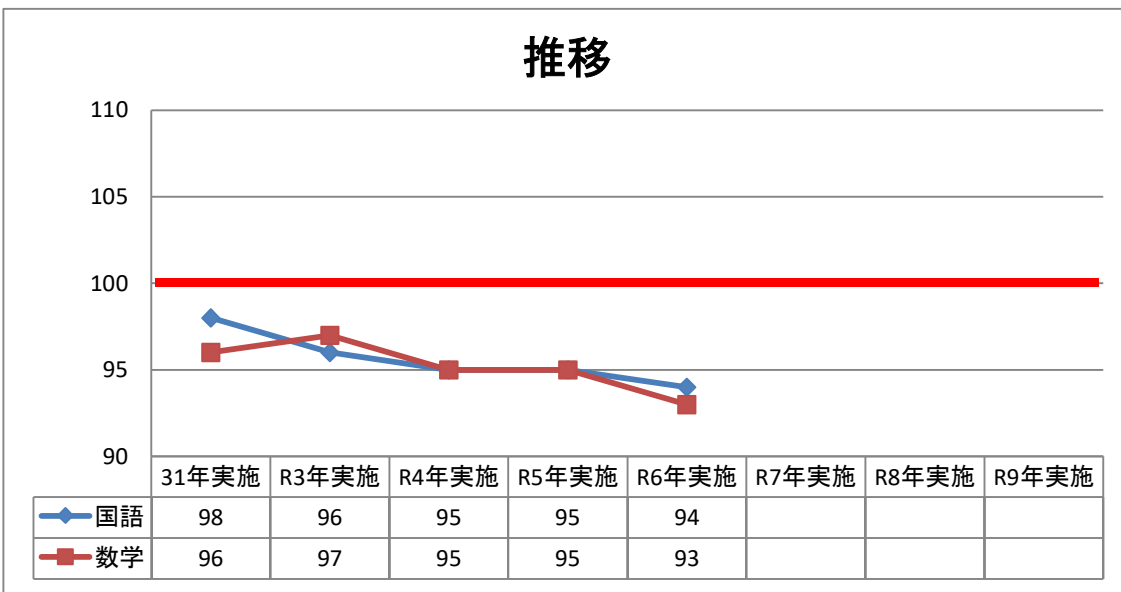
3.指標に向けての取組

- 基礎・基本の定着
 - ・一単位時間における学習内容の定着を図るミニテストの実施
 - ・系統的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)
- 家庭学習の質と量の向上
 - ・授業と自学ノートの連動(1日の学習内容をまとめる)
 - ・個に応じた週末課題の提示と振り返り
- 授業改善
 - ・定期考査にB問題(活用問題)を全教科に取り入れ、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施
- 各教科の領域別の得点率やC・D層の割合などの細かなデータ分析を利用した課題の把握や系統性のある改善策を立てて、実行する
- 語彙を増やすための活動や辞書の活用場面を増やすことによる語彙力の向上を目指した取組の実施

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	94	93
嘉麻市	95	95
全国	100	100

推移



5.各学校における分析

【国語】

○全項目で県・全国の平均正答率を下回っているが、「情報の扱い方に関する事項」においては、平均正答率が高く、社会科等での情報の読み取りや国語の授業の中での積極的な辞書の活用などから身に付いていると考えられる。

●記述式の問題において、無回答が多く、問題を読み取ることまではできているが、そこから説明を行ったり、自分の考えを書いたりすることができていない。そのため、国語科だけではなく、全ての教科において、「根拠を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを書く」言語活動の充実をより一層図る必要がある。

【数学】

○全項目で県・全国の平均正答率を下回っているが、昨年度の県学力調査をもとに同一集団の調査結果を比較すると、全領域で上昇傾向にある。特に、「関数」、「データの活用」の領域では、大幅な上昇が見られ、基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで行ってきたことが効果として出てきたと考えられる。

●記述式の問題において、無回答が多く、説明や証明する問題は約6割が無回答となっている。数学的に思考、判断し、表現する学習を行うことがより一層必要となると考える。

6.各学校における今後の取組

○基礎・基本の定着

・単元(題材)の中で、学習内容の定着度を見とる単元テストの計画的な実施(単元指導計画に位置づけることによる計画的な実施)

・ブロック活動等を活用した系統的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)

○授業改善と家庭学習の質と量の向上

・授業と自学ノートの連動(自分の弱点を克服するための、1日の学習内容をまとめる学習)

・生徒会活動と連動した家庭学習の質をあげる取組の設定

・反復練習を重視した個に応じた週末課題の提示と振り返り

・教師用授業チェックリストを活用し、教科部会で検証を行い、実態や改善策を共有した実践

○定期考査にB問題(活用問題)を全教科に取り入れ、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施(根拠を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを書き、それをもとに交流する活動を位置づけた授業づくり)

○各教科の領域別の得点率やC・D層の割合などの細かなデータ分析を利用した課題の把握や系統性のある改善策の計画・実行

・単元テスト通過率集計ツールの活用

・校内学力向上研修を通してのCD層の全体共通と各教科部会での2学期の取組の確認(TT授業や習熟度別授業の確認)

・朝学習での基礎・基本の徹底

○稲築西義務教育学校としての取組の推進(「授業の約束」の徹底や前・後期課程学力向上コーディネーターの定期的な会議の設定)

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した家庭学習を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元や学習のまとまりを単位とした学習定着状況の把握と個に応じた指導の工夫を推奨する。そのために、単元に小テストや単元テストを位置付け、トリプル80を視点から評価を各学校において確実に実施するとともに、学力検証委員会において、授業づくりや学力向上の取組に対する組織的な評価・改善の在り方について指導する。